

共愛学園前橋国際大学

共愛 COCO

第3回藤原地区合宿報告書

2016年1月16日（土）～17日（日）



## ～目次～

1. 概要

2. スケジュール

3. 持ち物

4. 記録

5. 個人感想

6. 会計

7. 頂きもの報告

# 1. 概要

## ◆第3回藤原合宿目的

- 1) 新年度の挨拶を含めた戸別訪問と地区の清掃活動
- 2) 集落の人との交流コミュニティを形成した映画上映会の実施
- 3) 次年度の活動に向けての課題発見

## ◆期間：2016年1月16日（土）～17日（日）

## ◆宿泊場所：源泉湯の宿 松乃井

〒379-1617 群馬県利根郡みなかみ町湯原 551

## ◆参加者：

小野僚大（英4）、古井戸進（英4）、佐藤春菜（国3）、中嶋優輝（児3）、  
市川裕美（心2）、井野明日香（国2）、笠原瑠依（国2）、加藤七彩（国2）



## 2. スケジュール

1月16日(土)

時間	内容	説明
8:15	伊勢崎出発・・・①	① 市川・古井戸でレンタカーを借りて各家を回りメンバーを拾う。赤城高原SAで小野と合流。
10:15	前橋IC	
10:50	赤城高原SA	
11:45	水上IC	
12:00	水上駅散策・昼食	
13:15	平出集落にて清掃活動・・・②	② 平出集落内の溝路の落ち葉拾い。
14:00	薪を運ぶお手伝い・・・③	③ なっちゃん家で使う薪の切断・運搬作業。
14:45	映画上映会の試験@平出会館・・・④	④ 2日目の上映会のリハーサル。
16:30	水上駅に向かう・・・⑤	⑤ 中嶋を迎えに行きホテルに向かう。
18:00	チェックイン	
18:30	夕食	
20:00	入浴	
22:00	ミーティング	
24:30	就寝	



1月17日(日)

時間	内容	説明
7:00	起床	
7:15	朝食	
10:00	チェックアウト	
10:45	上ノ原にて積雪調査・・・①	① 下区の平出では雪が降っていないため中区まで足をのばし、藤原の雪を体験しに。
12:00	昼食@らーめん武尊	
13:00	集落戸別訪問	
14:00	平出上映会開始・・・②	② 平出集落の住民を招いた上映会。昔の作品を見た後、お茶会を実施してその時代のお話を伺う。
16:15	平出での活動終了	
17:30	昭和 IC	
18:30	前橋 IC	
21:00	解散	



### 3. 持ち物

学生証・身分証明書・保険証	お金 (約8,000円)
着替え (1泊2日分)	筆記用具
軍手	ノート
下着類・靴下	時計
ハンカチ・ティッシュ	洗面用具
雨具	タオル
名札	防寒用ダウン
汚れてもいい服 (清掃活動用)	上映セット

～あると便利なもの～

手袋	替えの靴下
ビデオカメラ	常備薬
カメラ	ポータブル充電器
たこ足コンセント	温泉楽しむセット

※豪雪地帯のため防寒対策をしっかりとしました。

※平出集落の清掃活動をするため動きやすく・汚れてもいい格好にしました。

## 4. 記録

◆1月16日

雪かきの予定でしたが、暖冬のせいで雪が無かったので溝路の落ち葉清掃と薪運びのお手伝いをしました。今回も作業をしてくれたのは林明男さんです。



作業を見つめる女子3人組



薪運びのお手伝いもしました



◆1月  
17日



宿泊先の松乃井は高級感あふれる館内と美味しい料理で大満足でした。

2日目は平出集落の皆さんを招待して映画上映会を開催しました。鑑賞しながら、その後のお茶会と沢山のお話を聞くことが出来ました。

旅館の夕飯にて



平出上映会の準備



最後は全員で集合写真

## 5. 個人感想

最後の合宿を終えて

英語コース4年 小野僚大

本年度、大学生活共に最後の平出訪問となりました。初めての訪問から半年がたち、ナビを入力しながら水上に向かっていてと比べずいぶんとスムーズに平出地区に入れるようになりました。下見として初めて訪問したとき、

何が地域のためになるか、自分たちに何ができるのかを考えることで頭がいっぱいで、住民のことはあまり頭になかったのが記憶に残っています。最初は半年平出地区のみの人たちとひたすら村おこしのために奔走するというイメージでした。地域のために何ができるかを模索しながらの訪問を繰り返していくうちに地域に溶け込むことが今年目標となりました。地域の祭りに準備から参加させていただいたり、水路の整備をさせていただいたり地域住民の助けになることを任せてもらえるほどになれたということは地域住民の方に受け入れてもらったのではないかと私は考えています。地域のみを目を当ててそこに住む住人のことを考えていなかった時期と比べて随分と視野が広がり、自分自身の成長をほのかに感じました。地域住民と同じ目線になれたというにはまだ早いですが、何がこの地域のためになるのかはおぼろげながら見えてきた気がします。悔しいことに私が活動に参加できるのは今年度までなので、これからは後に続く人たちにサポートをしながらおぼろげに見えたものをはっきりとしたものとしていきたいです。

今回の活動は水上の冬の顔を見に来るはずでしたが、運がいいのか悪いのか当日になっても雪があまり降らず冬らしい一面を見ることはできませんでした。今回の合宿の目的は雪が降った時の平出の雪かきをサポートすることが目的だったのですが、見事にいいお天気だったので別のお仕事を手伝うことになりました。雪かきは活動当初からお手伝いしたいという声が上がっていたのでとても残念ではありましたが、その代わりにしたお手伝いは自分の住んでいる地域でもあまりやらない水路の掃除や薪を切って運ぶという作業だったので貴重な体験をさせていただいたうえで地域の役に立てたので大満足な活動でした。そして普段活動したことのない地域の中で最後の活動までみんながけがをすることなく無事に過ごせたことが何よりうれしかったです。

COCOの活動を通してメンバーの皆や平出地区のみなさん、泊まった民宿の方々、小・中学校の生徒みんななどいろいろな方々と知り合えました。初めて下見で平出地区に訪問したときはここまでたくさんの方々を知り合えるとは思いませんでした。地域を知るためにその周りに関わり、地域の資源を知るために各地を廻って、みなかみを知るためにそこら中に車を走り回らせたことがつい最近のように思い出せます。しかしまだ水上駅周辺でさえもまだ廻り切れていません。半年の活動を終えてもまだまだみなかみの隅々まで行けてないことが心残りです。これからの共愛COCOの活動で新たな情報が入ってくるのがとても楽しみです。

## 合宿を通して感じたこと

英語コース 4年 古井戸進

この活動を始めた当初から掲げてきた理念「地域の色は変えない」。半年間、共愛 COCO チームとしてこれを徹底してきて、今回の合宿では特にそれが出来ているという事を強く感じた。清掃活動と上映会での地域交流がメインの1月、活動中に何度も感じた事がある。それは以前にも増して地域との仲は深まり、強く結びついているという事。

平出集落ではこの季節になると溝路に落ち葉がたまり水の流れが悪くなるらしい。いつもはただ通り過ぎるだけの駐車場も地域の方達にとってはただの場所ではないようで、毎年溝路の掃除を誰かが担っているとか。今回はその落ち葉を取り除くお手伝いをした。水分を吸った葉が土に絡まりさらに重くなる。それらを休むことなく運び続ける作業は単純かつ重労働であった。しかし、そんなことを考えていたのは私だけで他のメンバーはどう思っていたのだろうと時々気になる。雪がちらつく冬空の中、汚れることを避けられないはずのメンバー全員が笑顔で楽しそうに活動するその姿は、地域との協働であったらうしそこに住まう人の様でもあったと思うから。

2日目に実施した上映会ではいつもお世話になっている平出の皆さんを招く形で初のイベントとなった。前日から準備に携わってくれた明男さんをはじめ5人の方達が集まってくれた。学生と映画を観ることを楽しみにしていたようで、差し入れを手を下げながら会館に向かう姿はいつもにも増していきいきして見えた。100分という長時間の上映が終わる頃にはすっかり疲れ切っている様子だったが、それでも若い人とお話が出来るという事に少しでも新鮮さを感じてくれたのであれば有り難いなとも思う。

どんな小さな活動でも地域の人との協働を大切にしていきたいし、それによって生まれる新しい何かを繋げ続けていきたいと思う。何も知らないよそ者学生が、普通に過ごしていれば縁がないであろう土地に入り込み、そこに住まう人との仲を深め受け入れてもらうことが出来た。それは全てメンバー8人の優れた人間性のおかげなのだと思う。この地域の“ここがダメだ”とか“ここを変えてやろう”とは今は一切思わない。そういった1つのチーム COCO に出来ただけで今年度の活動としては大成功なのだと思う。

## 藤原合宿での学び

国際コース 3年 佐藤春菜

合宿1日目。今回予定していた雪かきは落ち葉清掃になった。山の上から下へ通る水路の掃除である。藤原の方々の指導の下、チーム皆で活動した。落ち葉が取り除かれるにつれて、水路の水は音を立てて勢いよく流れた。作業した分だけすぐに結果が目に見えるのが嬉しかった。普段は人数が少ないために2時間ほどかかる作業を、40分ほどで終了した。

次に向かったのは明男さんのお宅、薪の材料をトラックに積む作業だった。メンバーが斜面に等間隔で立ち、下から上へとバケツリレーのように木の枝を運んだ。不揃いな枝にいろいろな感想が飛び交う中、受けとっては渡してを繰り返した。この先、このような皆での共同作業ができる機会はいくつあるのだろうか。澄んだ空気の中でそんなことを考えていた。

次は、翌日に控える映画上映会の準備である。ここには明男さんとMさんが来てくれた。Mさんが自家製の白菜漬を持ってきてくれたので、皆で食べながらお話をした。麴で漬けるのは北海道特有で、Mさんは塩とからしを使うと仰っていた。地域や家庭によって作り方・材料が異なるため完成品に特徴がでるようだ。

祖母から母へ、娘へと引き継がれていく、その時間の流れが素敵だと感じた。土地柄や家族の絆などといったもの全てが詰まっているように思える。

合宿2日目の映画上映会当日。まず初めに私たちは3グループに分かれて戸別訪問をした。上映会の実施を伝えて集会所に向かうと、すでに藤原の方々が入口付近に集まっていた。COCOのメンバーと藤原の方々がひとつの場所に集い、賑わっている光景を見て嬉しくなった。

今回、試験として実施した上映会について思うことが4つある。

1つ目は、上映会を通じての“交流”が第一目的であること。交流を通じて地域課題を発掘し、地域に役立つ活動を考え続けたい。

2つ目の考えは上映会の第一目的から外れるが、映画作品の選択についてである。私たち世代の作品と昔の作品を交互に選択するのはどうだろうか。昔の作品とは異なる新しさを感じ、楽しんでもらえるのではないかと考えている。

3つ目は、畳に座布団一枚では足・腰に負担が掛かるということ。上映会をくつろいで楽しんでもらうため、椅子や座布団を重ねるなどして工夫したい。

4つ目は、上映会についてのチラシ配布である。手紙のようなカタチでポストに投函したいと考えている。またチラシに感想欄を加え、それを持参していただけたなら今よりもっと意見交換ができるのではないかと。「書く」と「話す」のを組み合わせたらまた違う何かが発見できるのではないかと考える。

上映会についても、メンバー内で意見を共有し話し合いながらより良いカタチをつくっていききたい。

今回の合宿を終えて、共愛COCOは引継ぎの時期を迎えている。途中参加だったためメンバーと一緒に活動したのは短期間だった。そして短いながらも充実したものだった。メンバーと共に活動した一日はいつもあつという間に感じた。先輩たちからはいつも、COCOを大切にしている気持ちやひしひしと伝わった。ゼロからCOCOを立ち上げ、つくっていった先輩たちをととても尊敬している。受け継ぐ私たちも一歩ずつ、確実に進み続けたい。

そして、私たちをしっかりと支えてくれた奥山先生、COC オフィスの方々、皆様に感謝している。私は今、感謝の気持ちから何かをしようという原動力が生まれるのだと、実感している。

## 繋がりの大切さ

児童教育コース3年 中嶋優輝

今回の合宿を通して、人と人との繋がりの大切さを感じることができた。藤原での活動は2回目であるが、合宿に参加するのは初めてである。前回の活動では、小学校での活動が中心であった為、藤原の住民の方々とあまり接することができなかったが、とても元気な姿を見て驚いた。過疎地域のイメージとして落ち着いた雰囲気の人たちが多いと思っていた。しかし、実際には大きな声をあげて笑っている人もいれば何人も集まって話している人も多くいた。私をもっていたイメージを大きく変えることになった。もっと関わって元気な理由を知りたいと考えていたことを覚えている。今回の合宿で2日に分けて藤原で活動することができた。地域に密着して活動を行っていく共愛COCOの所属学生と初めて胸を張って語れるようになった気がした。

私は、初日は遅刻だったため、活動に参加してはいない。すべてに参加することができないというのは周りとの成長の差を感じてしまって苦しかった。だからこそ、2日目の活動に全力をぶつけようと考えていた。2日目の活動は私たちが選んだ昭和の映画を住民の方々と鑑賞するというものだった。昭和の映画をもとに当時の生活など教えてもらうことが目的だった。一緒に鑑賞をしてくれるように1軒1軒声を掛けにいった。実際に住民の方と会うと何を話せばいいのかわからなかった。私は話せなかったが同行した仲間が住民の方々と楽しそうに話していた。同行した仲間達は既に数回の藤原での活動を経験しており、住民の方々と輪の中に入り込んでいるのだと感じた。入り込んでいるから大丈夫という訳ではないが、地域に密着して活動をしていく第1歩目は輪に入れてもらうことだと思う。私は、まだ入り込めていない感覚を強く感じてしまった。事前の学習でも、地域に新しいものを持ち込むのではなく、地域が必要としているものを住民と一緒に考えていく必要があると学んでいた。私たちが、地域に足を運ぶだけでは、地域住民が必要としているものが、何なのかはわからない。コミュニケーションを取ることが重要である。私にとっても今後、続いていく藤原の住民の方との輪の中に入るために焦りを感じてしまっていた。同行した仲間が楽しそうに話している内容を聞いていると、地域の中での繋がりの強さを感じた。住民同士での関わりをととても楽しそうに話していた。前回の活動で住民の元気な姿に驚きを感じたが、元気な理由がわかった気がした。藤原の人たちはとにかくよく喋る。人と関わるのが好きなのだと考える。人と関わることを大切にしているからこそ自然と会話が生まれ、明るく楽しんで生活をする事が出来ているのだと思う。

人と人との繋がりをを感じる事ができた今回の合宿は、とても有意義な合宿だった。この先にも私は、藤原の人々と関わっていくことだろう。その際に、今回の合宿で学んだ人と人との繋がりを大切にして、何が必要とされているのか考えていきたい。

## 冬の平出

国際コース2年 五十嵐由衣

一家に1台は除雪機があるような平出地区も、今年は全国的な暖冬の影響でほとんど雪はなかった。もともと雪かきをお手伝いする名目で集まった私たちにとって、肩透かしを食らったような思いだったが、そのおかげで普段は目にするのでできない冬の平出を見ることが出来た。

今回最初に行ったのは、いつものように明男さん指導のもとの水路掃除だった。山からダムまで続く水路には、秋から冬にかけて大量の落ち葉が水路に溜まっていた。その落ち葉が詰まってしまうと水が塞ぎ止められてしまう。そうなる前に、その落ち葉を取り除く作業だ。鍬で水から落ち葉を掻き出すのだが、水を吸った落ち葉はずっしりと重みを増している。私たち大学生でも腰痛になりそうなこの作業を、毎年地域のお年寄りのみでやっているという。やっとの思いで落ち葉を綺麗に取り除いた後でも、誰より明男さんが一番元気だった。続いては、明男さんの庭に保管してある薪をご近所さんの家へ運ぶ作業だ。未だに薪で暖を取っているご家庭があることにも驚いたが、何よりご近所さんの薪を当然のように用意する明男さんに驚いた。このような支え合いによって、この集落は成り立っているのだと改めて実感した。薪を運ぶと一口に言っても、薪が保管されていたのは崖の一角。そこから急な斜面を登って上の車まで運ばなければならない。一步間違えれば一番下まで落ちてしまいかねない足場だったが、ここでも一番元気なのは明男さんだった。これだけ元気だから平出にいるのか、それとも平出にいるからこれだけ元気なのか。会うたびに明男さんの活力には驚かされている。

二日目は、地域の会館をお借りしての映画上映だ。その前に、宣伝を兼ねて各ご家庭を訪問した。暖冬とはいえ冬であることは間違いないので、畑や庭で作業している人はほとんど見かけず、少し寂しいように感じた。しかし一步お家にお邪魔すれば、以前訪問した時と変わらない暖かい笑顔で迎えて下さった。あまり人が集まらないのではないかと心配していた上映会も期待していたよりも多くの人が集まって下さった。前回の合宿から時間が空いてしまっていたが、やはり平出のみなさんはいつも優しく迎えてくださる。私達が地域を「手伝う」という名目であっても、いつも私達が助けられているような形になるのだ。

最初は今まで名前も聞いたことが無かった平出という地域に、町づくりや町興しに全く知識のない私が「この地域を元気にする！」と意気込んで始めた活動だった。もちろん現実にはそんな素人が出来る事はあまりにも少なく、すぐに壁にぶつかった。平出のみなさんやサポートして下さった先生方には、私達の拙い計画に呆れずお付き合いいただいたことを、本当に感謝している。「過疎地域」と一口に言っても、現状はそれぞれであり、全ての地域が今にも消えそうに困っているわけではない。少ない住人の中で助け合い、強い絆の中で生きている。この半年で、私はそれを学んだ。その絆こそが、これからの社会に一番必要なものではないかと感じる。それを人に伝えることが、この合宿の意味なのかもしれない。

## やっとそろった。

心理・人間文化コース 2年 市川裕美

共愛 COCO のメンバーは他の場所でも活躍している人が多いグループなので、ミーティングでも全員が毎回集まれるというわけではなく、みなかみやマルシェなど、学外での活動はとくに全員が集まるということができなかった。言葉で言い表すのは難しいのだが、そのことが原因で、共愛 COCO の活動であって共愛 COCO でない感じがしてしまっていました。しかし、今回の合宿でようやくみんなで集まることができたなと感じることができ、そう思うことのできる活動が最後にできてよかったと心からそう思っている。

私が参加した後期からの活動内容は、みなかみで活動すること自体があまりなく、みなかみでの予定をいれようとしても、他の行事とかぶってしまっていたり、メンバーが忙しく、ほとんどが参加できなかったり、という活動が続いていた。私自身何度かみなかみでの活動にも参加したことはあるが、みなかみに住む人たちと言葉を交わすことがほとんどなく、作業自体は楽しむことができたが、それ以外の面ではどこか物足りなさを感じていた。今回の合宿では、幸か不幸か、もともと活動のメインとなるはずだった雪かきをするほどの積雪がなく、落ち葉をどける作業のお手伝いと映画鑑賞がメインの活動となり、時間的にも余裕があり、おじいちゃん、おばあちゃんとお話をする機会が多く取れたことで、今まで他のメンバーよりも話せていないという思いがあったが、その思いを多少消すことができた。みなかみのおじいちゃん、おばあちゃんからはお漬物や柿をもらい、ストーブにあたりながらいろいろなはなしをすることができた。落ち葉をどける作業は、水を含んでいるので余計に重く、かがむ姿勢が続いていたのでとてもつらく感じたが、その後の木の枝を運ぶ作業はとても楽しかった。1人1人が枝を抱え運ぶのではなく、1本1本バケツリレーの要領で運ぶ方法が、COCO の大半を女性陣が占めているという現状と COCO の仲の良さを表しているようで、とても楽しく感じた。

話をしたのは、みなかみのおじいちゃん、おばあちゃんだけでなく、時間に余裕がある分、COCO のメンバーともたくさん話をすることができた。途中からの参加ということもあって、発言しにくいというところがあったが、今回の合宿でいつも多く話さないメンバーと話をしたり、みんなで盛り上がり話したり、普段の活動ではなかなかできないようなことをした。特に、1日目の夜には、これまでの反省とこれからどうしていきたいのかという話を先輩方に相談することができた。

今回の合宿ではいつもと少し違う雰囲気であったが、COCO らしい合宿になった。このメンバーでの活動は今回で終わりとなるが、今回の合宿で感じた周りの人たちの優しさ、COCO らしさ、中の良さをこれからも引き継いでいけるような活動を続けていきたいと思う。最後に、楽しい2日間を共に過ごしてくれた共愛 COCO のメンバーと、この合宿のために協力して下さった奥山先生をはじめ、私たちを優しく受け入れてくれたみなかみのおじいちゃん、おばあちゃんに感謝の言葉を伝えたいと思う。ありがとう。

## 大切にしたいもの＝ココ

国際コース2年 井野明日香

第3回目となる今回の合宿は今年度最後の合宿であった。合宿自体は8月と9月に実施したため、それから随分と期間が空いてしまった。藤原でどんな発見があり、どのような景色が見られるのかという楽しみと少しの緊張感、そして今の共愛COCOのメンバーと最後の合宿という寂しさと色々な感情が入り混じっていた。今回の合宿の目的は「除雪」のお手伝いになる“はず”であった。“はず”であったというのは、藤原に雪が全く積もっていなかったのである。これには驚いたが、それより私たち以上に驚いていたのは藤原の方々であった。「こんなはずじゃないんだよねえ」「いつもこの時期は大体30cmぐらい積もるんだけどねえ」と言っていた。藤原の方々はいつも雪が降るたびに大変な思いをしているから、雪が皆無で良かったのではないかと私は思ったのだが、そんなこともなかった。なぜなら、雪が積もらなければ藤原地区周辺のスキー場へ来るお客様は来ないし、スキーをするために水上へきてそのまま宿泊するお客様も来ないといったビジネス的な意味で困るからである。平出集落のおじいちゃんおばあちゃんは、雪の皆無状態を喜ぶのではなく他のみんな、つまり地域全体の心配をしていたのである。私はこのことに、とても感心したのを覚えている。さらに明男さんは私たちに「雪がしんと降る藤原をお見せしたかった」と言った。この言葉は明男さんの素直な気持ちから出たものだと思うが普通ならばこの発言は出ないだろう。その理由としては、自分の地域の特性を知っていて且つその景色が好きでなければ「(藤原の雪景色を)見せたい」なんて気持ちにはならないからだ。私は明男さんが言ったこの言葉を忘れないだろう。そして、早いうちならば次年度の冬合宿でその雪景色に出会えることを楽しみにしたい。

私たちは除雪作業の代わりに用水路に溜まっている落ち葉拾いや焚き火に使う木を切る作業をした。どちらの作業も体に負担がかかるものであり、つくづくこの限界集落の厳しさを感じた。だからこそ、彼らのお悩みや困っていることを聞いて何か私たちに出来ることを進んでやっていきたい。そして定期的に意識的に彼らの日常を聞いたり、藤原のことを聞き出したりすることで彼らのエンパワーメント、活力を少しでも届けたい。また、この作業後に改めて感じたことがある。それは藤原の住民がやっていることをお手伝いという形で共に作業をすることは自然と彼らとの距離が縮まることである。「この落ち葉はどうすればいいですか」「作業のコツを教えてください」など実際にかける言葉は何でもよいのだが、それがきっかけでまた1つ会話が増える。目的が同じということは私たち学生と藤原の方々つまり地域と協働していく上ではとても重要なことである。ずっと掲げてきた「ココ(藤原地区)の立場になって考え、活動していく」この思いは、やはり間違いではなかった。そのことを再認識することが出来て本当に良かった。

1日目は地域のお手伝いを、2日目は平出会館という場所をお借りして小さな映画上映会を行った。この上映会は共愛COCO初の試みであり少しの緊張とワクワク感があった。グループで分かれて戸別で上映会について宣伝をしに行ったのだが正直手応えを感じなかった。上映会当日に宣伝して寒い中わざわざ会場まで来てくれるのだろうか、あまり期待をすることが出来なかったのである。だから、会場に藤原の方々が来たときは本当に嬉しかった。明男さん含めて5人、それでも私にとっては十分だった。ストーブの音が聞こえるぐらいの静けさの中暗い空間で約2時間作品を共有した。長時間座るための対策や上映会の宣伝不足などいくつか反省点があったが、この上映会を通して、また新たな藤原との関わりを見つけることが出来たことは大きな収穫であった。最後に藤原の方々の温かさと私たち学生を快く受け入れて下さったことに心から感謝したく今後もココを大切にしていきたいと強く思う。そしてこの1年間共に活動してきたメンバーがCOCOのみんなだったからこそ何事も楽しく過ごすことが出来た。やはりココが大好きである。

## 冬の平出集落

国際コース 2年 笠原瑠依

11月の下旬に一度藤原地区を訪れてからおおよそ2ヵ月ぶりとなるみなかみ町は、以前よりも冷え込んでいて、その空気はとても澄んでいた。11月に訪れたのは藤原小・中学校のみであったため、平出集落を訪れたのは実に5ヵ月ぶりであった。5ヵ月ぶりの平出は、幸か不幸か暖冬の影響で雪が積もっておらず、過ごしやすそうに感じた。

平出に到着してすぐに行ったのは、側溝の清掃だった。落ち葉が入り込んで水がうまく流れないため、その落ち葉を取り除く作業だ。案内をしてくださった方は、寒い中躊躇なく側溝に入り、こうするんだと手本を見せてくださった。水分を吸った落ち葉はとても重く、側溝から持ち上げる作業はすぐに腰が痛くなった。8人で取り組んだため30分ほどで作業は終了したが、この作業を普段は2人程度で行っているという。清掃が終わると、次は薪運びのお手伝いを行った。重い薪を8人でリレーをしながら運び出していく。長いものがあればノコギリで短くしてから運び出す、とても重労働だと感じた。これらの作業量を考えると、平出の方々がどれほど力強く生活しているか、感じ取ることができたと思う。それと同時に、後継者不足を痛感した。私たちのような存在が積極的にお手伝いをすることで、少しでも彼らの力になればと思った。

2日目には奥山先生にプロジェクターをお借りし、平出会館で映画の上映会を行った。上映会のことを集落の方々に伝えるため、私はまず夏の合宿のときにお邪魔したNさんのお宅へ伺った。突然の訪問であったにも関わらず、Nさんは快く私たちを招き入れてくださった。「お茶飲むかい、寒いだろ、おこた入んな」約5ヵ月ぶりである私に対しても、このように暖かく迎えてくださったことが本当に嬉しくて、まるで自分のおばあちゃんの家のような安心感があったことを覚えている。Nさんは「年賀状ありがとう」と私たちが送った年賀状を見せてくださった。本当は年賀状を送り返したかったけど返せなかった、とNさんはおっしゃっていたが、そう思ってくださいの気持ちだけで十分だと心の底から嬉しかった。Nさんは上映会への参加を快諾してくださり、さらに近所の方にまでお声をかけてくださった。寒い中、シルバーカー（手押し車）を押して「こっちのほうが近道だよ」と坂道を上がっていく様子は、とても95歳と思えないほど元気でしっかりとした足取りであった。急きょ決定した上映会であったため、いくつか課題があったと思う。例えば音量の問題だ。ストーブの音にかき消されてしまい、私たちでさえも聞き取りが難しかった部分もあった。その他の反省点を踏まえ、次にいかしていきたい。

1年の締めくくりとなった今回の合宿だが、いくつかの課題も見つかったと思う。これらの課題をしっかり考えて、今後につなげていければと思っている。それと同時に、改めて人とのつながりの暖かさを感じた。冬の平出集落は、寒いながらもどこか暖かい、そんな素敵な場所だった。

## 合宿報告書

国際コース2年 加藤七彩

一月の半ばのみなかみ町は、雪はなかったものの、とても寒かった。用水路の落ち葉を掃除した時に濡れてしまった軍手を一時間ほど外に置いておくと、昼間にも関わらず凍ってしまった。私はそれをとても驚いていたのだが、明男さんは「そんなことは当たり前のことですよ」と笑った。このように、もう何度も来ているはずのみなかみ町だが、知らないことがまだまだあるのだ。それがみなかみ町へ行くことの楽しみのひとつである。今回、みなかみ町の新しい発見をした。それは、野生動物だ。みなかみ町にはたくさんの野生動物が住んでおり、近づくとも命の危険がある動物もいるのだ。駅前のお土産屋のスタッフさんは野生動物についていろいろなことを知っていた。店には写真もたくさんあった。彼は、一番危ないのは熊だ、とおっしゃっていた。熊に遭遇したら、なす術はなく、祈るしかないそうなのだ。大きな町ではテロなどの危険があるが、田舎だとその危険がない代わりに、とても変わっている自然の中だからその危険があるのだ。ほかにも野生動物でカモシカと呼ばれる、鹿のような動物がいる。そんなに珍しい動物ではないらしいのだが、今回も見ることができなかった。とても残念である。そして二日目には、藤原の方々と映画を見た。とても寒いので、大きなストーブを付けて上着を着て防寒をした。映画を見ているとだんだんと室内が暖かくなってきて、とても心地よい空間になった。映画は二時間程度であったが、もっとゆっくりと時間の経過を感じた。もしここに来なかったら、若いころの美空ひばりが出演している映画なんて見ることはなかった。自分の興味のあることだけをし、自分の好きなものを視聴していた。だから、美空ひばりがこんなにも美しいこと、藤原がこんなにも寒いこと、そしておじいちゃんやおばあちゃんと一緒に過ごす時がこんなに心地よいことだと気づくことはなかったであろう。私は今まで、藤原のひとつにもっと良い生活を、もっと便利なものを、と考えていた。しかし、実際にはそんなものは存在しなかったのである。私の中にあるのは、「この空間を大切にしたい。そして、この空間を作りだす藤原を守りたい」という気持ちであった。つまり、私のやりたいことは、この藤原の状態を維持することである。また来年も、サルに柿を食べられて文句を言っている明男さんを見たいのである。今回が最後の合宿で、藤原についての活動を振り返ることが多かった。また、来年も今年と同じように藤原で過ごしたいと思うのに、変わってしまうことももちろんあるのである。共愛COCOのメンバーは卒業してしまうひともある。同じ時間は二度と過ごすことができないと感じ、この合宿を心に刻むように過ごした。藤原も同じように変わってしまうことがある。それは、獅子舞だ。藤原には子供がいない。だから、獅子舞を踊れるひとがいないのだ。これは、お手伝いをする絶好の機会であると考えた。しかし、女性は踊らないという伝統らしい。意外と悲しい気持ちになった。それでも、来年の獅子舞を成功させたい。そのために、私たちにできることはなにか。これからも、模索していきたい。

## 6. 会計

### 第3回藤原合宿会計報告

2016年1月16～17日

収入			支出		
	前回繰越金	¥31,231	¥1,460	高速道路料金	1/16
1/12	費用受取	¥98,000	¥92,550	宿泊料金	1/17
			¥920	高速道路料金	1/17
			¥30,939	レンタカー代	1/17
			¥320	電車代	1/17
合計		¥129,231	¥126,189		合計

2016年1月19日(火)

会計担当：国際2年 井野明日香

## 7. 頂きものの報告

### ◆1月16日

平出集落の皆様  
奥山先生

缶ビール36本  
いちご大福、打ち上げ用ケーキ

### ◆1月17日

林 茂仁 様  
平出集落の各お宅の皆様

昼食時のジュース×人数分  
上映会時の差し入れ

